はじめに

日本では社会情勢や時代の変化を反映して，精神障害の分類，疾患の種類も徐々に変化しています．本書では，強迫神経症などの不安障害やパーソナリティ障害，摂食障害，心的外傷後ストレス障害のほか，近年注目されているギャンブル障害，ゲーム障害，買い物依存なども新たに追加し解説しました．これらは看護の面からはメンタルヘルスに関わる重要な問題として，不登校や家庭内暴力，虐待なども見逃すことのできない社会現象でしょう．

時代とともに移り変わる精神病性の変化に伴って，治療方法も模索され続けてきました．薬物療法，精神療法，社会療法など多くの種類の治療方法があることも精神医療の特徴の一つですが，薬物療法か精神療法かなど，どれか一つだけでは限界があると考えられ，最近ではさまざまな治療法を組み合わせて効果的な治療が行われています．同時に，私たち看護者にもますます精神看護の専門性が問われるようになっています．

このような精神医療の状況の中で，看護にはどのような役割が求められているのでしょうか．こころを病んだ人を前にして，その人を理解する過程そのものが看護であるといえます．そのための有効な手段の一つとして，日常生活行動の援助技術，傾聴や共感といったコミュニケーション技術などがあるといえるでしょう．ケアの場でこれらの技術をどのように展開するのかには，看護者の考え方や価値観が深く関わってきます．

本書は，患者との出会いから始まる人間関係の確立とその関係性の発展を重視して編集しました．患者の療養生活に寄り添う看護師の専門的知識や日常生活行動の援助技術は何よりも重要な関わりの道具となります．一方で作業療法やプログラム活動，散歩や行事やゲームなどのレクリエーション，買い物など，日常生活のあらゆる場の支援が，治療施設内であるか地域社会であるかにかかわらず，回復へのきっかけになり得るということについて理解を深めてほしいと考えました．

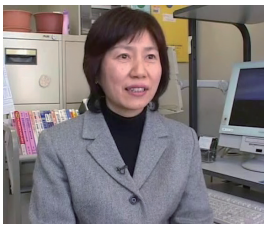
今回の改訂では，「病院から地域へ」の動向を踏まえ，精神科病院で長期の療養生活を経て地域へ戻る人への退院支援や，そこに関わる各専門職との連携について新たに加筆しました．地域社会で精神障害とともに生きていく人を支えるためには，医療だけでなく，社会福祉の視点からの援助も欠かせません．

このような立場から日々看護実践を行っている臨床現場の看護師たちや退院支援・訪問看護に関わる地域連携部門の看護師が執筆に加わりました．

最後に，私たち援助者自身もまた，ケアの場のダイナミクスを通して，日々新たな学習をする看護者でありたいものです．

編者を代表して　出口禎子

コンテンツが視聴できます
(p.2参照)



●精神科看護を学ぶにあたって〈動画〉